

地域共生社会を目指して

年齢や障害の有無にかかわらず「地域で安心して豊かな暮らしをしていくために」3つのポイント

- ① 「教育・医療の情報共有」 - 成長や発達には個人差があります。学校教育では児童及び生徒がその発達段階と特性並びに本人の意思に応じて、学びの場と進路の選択ができます。
医療、介護では治療、療育など日々研究がなされ、個人のニーズに合わせ必要な支援が包括的かつ継続的に提供されるよう施策が講じられています。



常に新しい情報を取り入れ、ご本人が支援の選択肢を「知る」ことが大切です。

- ② 「自助・共助」 - 自立とは…当該児・者の意思を真ん中にしながら多機関と繋がり、支援先を多く持つことによって「安心でき、豊かな日常生活」を目指します。
また、支援する側も、ちょっとしたお手伝いから専門的な支援まで、幅広い助け合いの関係性があることで、負担感が少なくなり、結果お手伝いしやすい環境が生まれます。



幼児期から、家庭、地域、学校、職域その他の様々な場において 共同活動の場に参加し顔を（自分を）知ってもらいましょう

- ③ 「地域の理解者を増やす」～顔見知りから 一歩先へ～
日頃のちょっとした見守りや、災害などの緊急時に備え、地域の協力者と相互に助け合うことを心がけましょう。

『 障がいのある人もない人も 共に生きる長野県づくり条例 』

令和4年3月 24 日 長野県条例第 14 号

（抜粋）全ての県民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、支え合い、活かし合う社会の実現に寄与することを目的とする。

あいサポートバッジ（あいサポート運動シンボルマーク）

「あいサポートバッジ」とは、あいサポーターのシンボルバッジです。



2つのハートを重ねて後ろの白いハートで「SUPPORTER（サポーター）」の「S」を表現しています。

ベースとしている「橙色（だいだいいろ）」は、日本の障がい者福祉に尽力された糸賀一雄氏の残した言葉「この子らを世の光に」から「光」や、「暖かさ」をイメージするものとしています。

また、「だいだい（代々）」にちなみ、あいサポーター（障がい者サポーター）が広がって、共生社会が実現されることへの期待も込められています。